

# KELES FORUM

第二言語習得研究が解き明かす  
外国語の学習のポイント  
《①シャドーイング、②ディコーディング、③インタラクション》  
CSLAR

中西弘 (西南学院大学)  
川崎真理子 (長岡崇徳大学)  
門田修平 (関西学院大学)

KELES  
RYUKOKU UNIVERSITY  
JUNE 9, 2024



## ②ディコーディング

Mariko Kawasaki  
長岡崇徳大学、関西学院大学CSLAR

KELES  
RYUKOKU UNIVERSITY  
JUNE 9, 2024

## Reading Skills & Orthographic Processing Skills

3

### 流暢な読みの条件

text, word, subword unit レベルでの  
正書法、音韻、意味処理の自動化  
(LaBerge & Samuels, 1974)

## Orthographic Processing

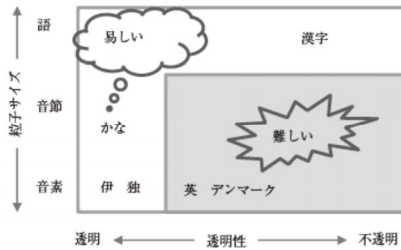
4

流暢な読みの基盤の一つとなる正書法構造に含まれる要素

- 単語内で、特定の文字が特定の位置に出現する確率
- 文字の並び順
- 発音可能な文字の組み合わせ

(Grainger, 2018)

## What Makes Orthographic Processing Complicated?

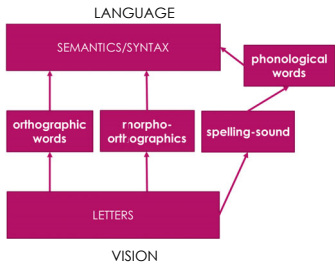


Wydell & Butterworth, 1999, p. 280 を筆者訳

## Reading Skills & Orthographic Processing Skills (OPS)

- ▶ 読みに対するOPS(Orthographic Processing Skills)の関与
- ▶ 課題： 読みの指標5種類  
非単語音読  
制限時間なしの単語同定 (認識)  
時間制限付き単語同定 (認識)  
テキストの音読速度  
テキストの黙読速度
- ▶ 対象： 小3、87名
- ▶ 結果： OPS、年齢、IQ、音韻処理能力  
1. OPSは各読み課題に寄与する、テキスト読み > 単語読み  
2. 活字接触量の差はOPSの差を一部説明するが、活字接触量を排除しても有意な差は残つ(Baker, Torgesen, & Wagner, 1992)

## Vision-Language Interface



視覚処理と言語処理のインタフェース

正書法の類似性が単語レベルの読みに影響する

熟達した読み手は、文字の位置情報を利用する

(Grainger, 2018: p.336)

## Orthographic Processing Transfer (について) <sup>8</sup> (Chitiri & Willows, 1997)

正書法処理は言語特有であるとする理由：

- L1の正書法が浅い場合、単語の読みは **音韻処理 > 正書法 (視覚) 処理**
- 正書法が大きく異なる言語のバイリンガル (English & Greek) **両言語とも独自の処理をおこなう**

## 小中学生の識字獲得

## 小学校での音から読みへの活動成果

(斎藤、川崎、禰宜田、2014  
in 川崎、中西、西村、三木、2024)

- ▶ 疑似単語の初頭音の同異判定
- ▶ 事前事後デザイン：1学期間 音を中心とした学習活動
- ▶ 刺激英語と日本語：各3種類のペア

ペアの種類	英語ペア例	正答	日本語ペア例	正答
①最初の子音が違う	tame-mame	異	ぼし-ごし	異
②子音+母音が同じ	beak-bead	同	でく-でま	同
③最初の子音が同じ	bosh-beak	同	めど-もみ	異

## 小学校での音から読みへの活動成果

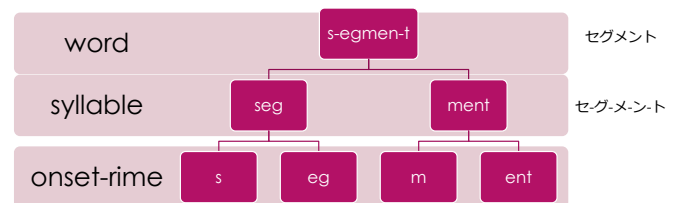
- ▶ 結果：正答率は有意に上昇  
③の英語ペアを「異」とする誤答多
- ▶ 考察：日本語の音韻認識単位による処理？  
英語の **オンセット+ライム** ではなく  
子音+母音単位で処理。

bosh    osh  
beak    eak  
b +    eak

bosh    ぼ +    しゅ  
beak    び +    く

ペアの種類	英語ペア例	正答	日本語ペア例	正答
①最初の子音が違う	tame-mame	異	ぼし-ごし	異
②子音+母音が同じ	beak-bead	同	でく-でま	同
③最初の子音が同じ	bosh-beak	同	めど-もみ	異

## Phonemic Awareness for Reading in English



## 小学生 中学生(Kawasaki, 2013) 学習実験

- ▶ 小学校 5, 6年生, 中学校 2, 3年生
- ▶ 事前事後デザイン: 約30分
- ▶ 刺激: ai, au, ou, uを含む疑似単語
- ▶ 疑似単語を読む(録音) → 正しい読みを聴く → 復唱する
- ▶ 中学生の反応潜時と正答率は有意に改善  
ローマ字規則の適用による誤読が減少
- ▶ 事前の読み誤りに規則性\*がある場合: 事後の伸び率が大きい
- ▶ 正確さの向上 → 処理速度の短縮

## 大学生の 未知語を綴る力と語彙力

## 動機

15

残念な読み間違い  
Let me raise the height of  
the bed.  
raiseとheight  
どちらの間違いがより残念?

知らない単語が出てきたときどうする? undress

- 隣の人に発音を尋ねる → 丸ごと 音を記憶する
- 辞書アプリの音声再生 → 同上
- Marikoに尋ねる → とりあえず読んでみて、と言われる

u+n+dr+e+ss

知らない単語が聞こえてきたときどうする?

- カタカナで書く → 後で調べられにくい?
- アルファベットで書く → 調べる・尋ねるが可能
- 全く書かない・書けない → 聞けていない=復唱できない

## How do you spell it?

/goup/	GOPE	GOWP
/tein/	TAIN	TANE TAYN
/raid/	RADE	RAID RAYD
/paus/	POUSE	POWS POUS
/ki:t/	KETE	KEET KEAT KEYT KIET

## 課題

17

対象(有償): 大学1~3年次生21名

- ① Word dictation
- ② Vocabulary size test

## 非単語の書き取り

18

01

非単語の音声提示  
(1音節)

"/təIt/"

02

1巡目 単語の後半  
の母音の綴りを答える

t \_ \_ \_

03

2巡目 単語の末尾  
提示に基づいて母音  
の綴りを答える

t \_ t e

## 刺激音（母音）に対する母音字の種類

19

ai	---	a-e
ea	ee	e-e
---	ie	i-e
oa	oe	o-e
ui	ue	u-e

## 刺激統制

20

例	bain	daim
• 母音部の綴り	ai	ai
• Body Friend数	21 (多)	3 (少)
• Body Enemy数 (0~6)	0	0
• Body Enemy出現頻度合計 (0~3824)	0	0

Rastle, K., Harrington, J., and Coltheart, M. (2002). 358,534 nonwords: The ARC nonword database. *The Quarterly Journal of Experimental Psychology*, 55A(4), 1339-1362.

## 書き取り用 画面（語尾表示時）

21

母音	非単語	画面表示	実単語	CEFR-J	母音	非単語	画面表示	実単語	CEFR-J
A /ei/	bain	b__n	rain	A1	O /ou/	jobe	j__be	globe	A2
A /ei/	dase	d__se	case	A1	O /ou/	noam	n__m	foam	---
E /i:/	neep	n__p	sleep	A1	U /u:/	kuit	k__t	fruit	A1
E /i:/	deam	d__m	team	A1	U /u:/	lupe	l__pe		
I /ai/	hite	h__te	site	A1					
I /ai/	prie	pr__e	pie	B1					

## 語彙力

22

	最小値	最大値	平均値	標準偏差
<b>正答率</b>	.50	.76	.63	.07
<b>(語彙レベル)</b>	3520語	5320語	4410語	

## 綴り正答率

23

	最小値	最大値	平均値	標準偏差
<b>非単語 語尾綴り無</b>	.04	.91	.28	.17
<b>非単語 語尾綴り有</b>	.19	.65	.37	.12
<b>実単語</b>	.26	.87	.52	.15

## 語彙正答率と綴り正答率の相関

24

	非単語 語尾綴り無	非単語 語尾綴り有	実単語
<b>語彙正答率</b>	.486**	.468**	.542**

\*\*p<.05

## 入力綴りの例 /aɪ/の場合

25

ローマ字規則の使用 : aim → eim

英語の規則の誤用 : ait → ayt

聞き取りの誤り(推測) : aim → em

## 考察

26

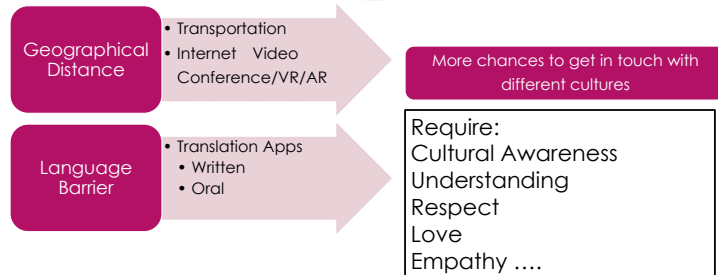
- 未知語を綴る力は低いが、  
語彙力と未知語を綴る力には相関関係がある
- 理由
- 正しく音韻表象していない可能性  
日本語音として表象 (カタカナで書けばいい)
  - 正書法知識を獲得していない  
⇒ 自力で綴る経験なし  
(自然な獲得段階を経ていない)

## 課題

27

- 文字に触れる (読書) 機会がEFLでも不可欠
  - 音韻認識力を育てる、識字獲得の前段階が大切  
(日本語と英語の音システムの違いに気づく) → 若者に期待
  - 文字に触れる、注意が音 ← 文字'の関係に向く
    - 初見で読める (ひらがなのように) ことに気づく
    - ルールに気づく
    - 文字の組み合わせの頻度に気づく
- 聞こえたとおりに綴ること、綴った結果に報酬を!  
= invented spelling (発達段階において重要な役割がある)

## 多様性/共生/未来志向教育



## References

- ▶ Barker, T. A., Torgesen, J. K., & Wagner, R. K. (1992). The role of orthographic processing skills on five different reading tasks. *Reading Research Quarterly*, 27(4), 334-345. <https://doi.org/10.2307/497673>
- ▶ Chitri, H., & Willows, D.M. (1994). Word recognition in two languages and orthographies: English and Greek. *Memory & Cognition*, 22, 313-325.
- ▶ Grainger, J. (2018). Orthographic processing: A 'mid-level' vision of reading: The 44th Sir Frederic Bartlett Lecture. *Quarterly Journal of Experimental Psychology*, 71(2), 335-359. © Experimental Psychology Society 2017 Reprints and permissions: sagepub.co.uk/journalsPermissions.nav DOI: 10.1080/17470218.2017.1314515
- ▶ Kawasaki, M. (2013). A comparison of the decoding skills of children and adolescents: An examination of automaticity and error types. *Language Education & Technology*, 9(0), 1-21.
- ▶ LaBerge, D., & Samuels, S. J. (1974). Toward a theory of automatic information processing in reading. *Cognitive Psychology*, 6(2), 293-323. [https://doi.org/10.1016/0010-0285\(74\)90015-2](https://doi.org/10.1016/0010-0285(74)90015-2)
- ▶ Wydell, T. N., & Butterworth, B. (1999). A case study of an English-Japanese bilingual with monolingual dyslexia. *Cognition*, 70(3), 273-305.
- ▶ 川崎真理子・中西弘・西村浩子・三木浩平(2024).「第二言語習得研究が解き明かす外国語の学習」くろしお出版
- ▶ 斎藤倫子・川崎真理子・福宣田麗子 (2014).「日本人小学生の英語文字・音素認識力：大阪市重点校19校における大規模横断的実証研究」外国語教育メディア学会 関西支部2014 年度秋季研究大会。